

令和6年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座

# 三種の神器と北部九州

第1回 令和6年6月15日(土) 愛媛大学 吉田 広氏  
「青銅製武器の行方  
—三種の神器への連なりを問う—」

第2回 令和6年9月28日(土) 奈良文化財研究所 谷澤 亜里氏  
「『定形勾玉』の展開と北部九州」

第3回 令和6年12月7日(土) 京都橘大学 南 健太郎氏  
「北部九州の銅鏡と弥生社会」

令和6年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座

「三種の神器と北部九州」第3回

京都橘大学 南 健太郎 先生

「北部九州の銅鏡と弥生社会」

令和6年12月7日(土) 13:30~15:00

定員 300人 (先着順)

※定員や申込方法などが変更となる場合は、  
埋蔵文化財センターホームページでお知らせします。

主催・問い合わせ先

福岡市埋蔵文化財センター

〒812-0881 福岡市博多区井相田 2-1-94  
TEL: 092-571-2921 FAX: 092-571-2825  
電子メール: malbun-c.EPB@city.fukuoka.lg.jp

※会場は福岡市博物館になりますので、ご注意ください。

福岡市埋蔵文化財センター  
ホームページ



「福岡市の文化財」  
Facebook



## 講師紹介

南 健太郎 先生

1981年 長崎県生まれ。

2009年 熊本大学大学院社会文化科学研究科修了。博士（文学）。

2010年 宮崎県埋蔵文化財センター、

2011年 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター助教を経て、

2022年より 京都橘大学准教授。

### 【論文・著書など】

『東アジアの銅鏡と弥生社会』同成社、2019年

「重圏文鏡生産開始期の技術様相－湯口・湯道の設置方法の検討から－」

『FUSUS』Vol.14 アジア鑄造技術史学会、2022年

「鑄造技術からみた後漢・三国時代の銅鏡」

『銅鏡から読み解く2～4世紀の東アジア』アジア遊学237 勉誠出版、2019年

「漢三国六朝期における鏡の使用法とその伝播」

『先史学・考古学論究』VII 竜田考古会、2019年

# 北部九州の銅鏡と弥生社会

南 健太郎（京都橘大学）

## はじめに

### ●弥生時代の銅鏡とは

【朝鮮半島製】多鈕細文鏡（、小形仿製鏡）

【大陸製】漢鏡

【日本列島製】北部九州製小形仿製鏡、近畿製小形仿製鏡、破鏡

### ●銅鏡研究によって何がわかるか

- ・銅鏡の分布→日本列島内における地域間関係  
朝鮮半島・大陸との交流・交渉
- ・銅鏡の製作方法→技術の伝播、製作者集団の組織、製作地間の技術交流
- ・階層分化
- ・弥生時代から古墳時代への転換過程

## 1. 弥生時代中期前半の銅鏡—多鈕細文鏡—

### ●吉武高木遺跡3号木棺墓出土多鈕細文鏡

- ・非常に珍しい文様構成：宮里修分類のD式・IV段階（宮里2008）
- ・日本列島出土品の中では最古級  
（同時期の多鈕細文鏡：宇木汲田遺跡12号甕棺、本村籠遺跡58号甕棺）
- ・出土時期は弥生時代中期初頭→製作時期はそれよりも若干早い可能性あり

### ●面径

IV段階：吉武高木・宇木汲田・本村籠→10.5～11.1 cm、大県→21.5 cm

V段階：増田遺跡SJ6242・里田原遺跡3号甕棺・梶栗浜遺跡→8.8～9.15 cm

名柄・小郡若山1・2→15.3～16.0 cm

⇒時期的、地域的な偏りみられない。

### ●日本列島の多鈕細文鏡の出土状況

【北部九州】 木棺墓（吉武高木）

甕棺墓（宇木汲田、本村籠、里田原、増田）

埋納（小郡若山）

【中国地方以東】 箱式石棺墓（梶栗浜遺跡）

埋納（大県遺跡、名柄遺跡）

⇒最終的な扱い方は多様だが、近畿地方では墓への副葬はない。

## 『三種の神器と北部九州』

## ● 共伴遺物

- ・ 武器形青銅器、玉類との共伴（吉武高木）
- ・ 武器との共伴（宇木汲田、梶栗浜）
- ・ 玉類との共伴（本村籠）
- ・ 共伴遺物なし（里田原、増田）

⇒必ずしも豊富な副葬品を伴うというわけではない。

➡吉武高木遺跡では多鈕細文鏡は「中核墓」（常松 2006）が保有するが、他遺跡では保有が必ずしも権威に結びついているとは言えない状況？明瞭な中心一周辺関係は読み取れないことから、列島内における多鈕細文鏡の授受関係、画一的な価値体系は成立していなかったと思われる。

## 2. 弥生時代中期後半以降の銅鏡－漢鏡、破鏡－

## ● 漢代における銅鏡保有システム（南 2019）

## 【諸侯王墓・王后墓・陪葬墓】

大雲山M1：諸侯王墓、銅鏡4面（16.4～21.4 cmの草葉文鏡）

大雲山M2：王后墓、銅鏡1面（23.1 cmの草葉文鏡）

大雲山M16：陪葬墓、銅鏡1面（12.2 cmの蟠螭文鏡）

大雲山M17：陪葬墓、銅鏡1面（11.2 cmの蟠螭文鏡）

⇒鏡式：草葉文鏡＞蟠螭文鏡（草葉文鏡の保有が重要）

面径：王后墓＞諸侯王墓＞＞陪葬墓（王后墓では小型鏡が重要視される場合もあり）

面数：諸侯王墓＞王后墓、陪葬墓（諸侯王墓と王后墓が逆転する場合もあり）

※満城M2では4.9 cmの小型鏡が左手の中から出土。

## 【中・下級官人】

- ・ 被葬者1人に対し1面の副葬が原則。
- ・ 被葬者1人に対し複数面副葬する場合は、小さい鏡が棺内に納められる。
- ・ 面径は副葬品の多寡、墓の構造・規模に相関しない。
- ・ 複数人埋葬墓で1面のみ副葬する場合は、墓主以外に副葬。
- ・ 複数人埋葬墓で複数面副葬する場合は、墓主に大きな鏡を副葬。

⇒面径、面数は細かい階層関係とリンクしておらず、小さい鏡のほうが重視された可能性も。19 cm以上の銅鏡は極めて稀。

➡上位階層では銅鏡保有がシステムチックに規定されているが、中・下級官人にはそれが及んでいない。ただし、面径に関しては上位階層の銅鏡保有状況が影響している可能性も。

## ● 弥生時代中期末～後期中葉における銅鏡拡散・受容システム

## 【弥生時代中期末：2つの中心地】

弥生時代中期末における漢鏡の位置づけ：権威の象徴（高倉 1993）

## 『三種の神器と北部九州』

A地域：漢鏡の面数・面径の差異によって階層関係や職掌を表す。鏡式分化。

糸島地域、嘉穂地域、佐賀平野

例) 三雲遺跡南小路地区1号甕棺：重圈彩画鏡（前漢前半）27.3 cm

四乳羽状獣文地雷文鏡（前漢前半）19.3 cm、

異体字銘帯鏡（前漢後半）約15～18.8 cm

三雲遺跡南小路地区2号甕棺：星雲文鏡（前漢後半）11.4 cm

異体字銘帯鏡（前漢後半）6.0～8.3 cm

B地域：漢鏡の面径に区別なく王墓や上位階層によって保有される。鏡式分化。

福岡平野から二日市地峡帯

例) 須玖岡本遺跡D地点墓：草葉文鏡（前漢前半）23.0～23.6 cm（前漢王侯クラスに匹敵（岡村1999））

星雲文鏡（前漢後半）15.9～17.1 cm

異体字銘帯鏡（前漢後半）7.6～17.3 cm

※破鏡を拡散させることで、東北部九州や中九州、中四国以東に完形鏡との差異をもって拡散させる。北部九州→各地域の拠点集落→地域内の集落

## 【弥生時代中期末～後期前葉】

中期末のA地域に唐津を加えた地域に圧倒的な集中（面数、面径の両側面）。

例) 井原鑿溝遺跡（巴形銅器あり）：方格規矩四神鏡（後漢前半）12.8～17.0 cm

桜馬場遺跡（巴形銅器あり）：方格規矩四神鏡（後漢前半）15.4 cm、23.2 cm

内行花文鏡（後漢前半）18.5 cm

※この時期に愛媛県（唐子台14丘墓：12.5 cm）、岡山県（用木2号墳：9.8 cm、別主体部で北部九州製小形仿製鏡出土）、兵庫県（天王山4号墳：9.5 cm）にも完形鏡が拡散。前段階に前漢鏡破鏡拡散。

## 【弥生時代後期中葉】

北部九州での時期比定可能な出土例少ない。

※岐阜県に大型完形鏡が拡散（瑞龍寺山頂遺跡：22.1 cm）。

※※北部九州製小形仿製鏡分布が最も広がる（奈良県池殿奥4号墳が東限）。

## ●平原遺跡1号墓出土鏡の評価

方格規矩鏡・大型内行花文鏡（29.1 cm・46.5 cm）が漢鏡か仿製鏡かで弥生時代から古墳時代への移行期の社会像が大きく異なってくる。

原田大六（原田1966、1991）：すべて仿製鏡

高橋徹（竹田市教育委員会編1992・高橋1994）：すべて仿製鏡

岡村秀典（岡村1993、1999）：超大型内行花文鏡・「大宜子孫」内行花文鏡→仿製鏡

方格規矩四神鏡→漢鏡

柳田康雄（柳田1996、前原市教育委員会編2000、柳田2002a・2002b、糸島市教育委員会編2017）：すべて仿製鏡

## 『三種の神器と北部九州』

清水康二（清水 2000）：すべて漢鏡、方格規矩四神鏡の鏡范を再利用し三角縁神獸鏡を鑄造（清水他 2018）

南健太郎（南 2019）：内行花文鏡（29.1 cm）・方格規矩四神鏡→漢鏡  
内行花文鏡（46.5 cm）と共通する重圈文を有する内行花文鏡を大陸で確認（馬編 2024、ただし9 cmの小型鏡）。八葉座は大陸では依然未確認。

## ●今宿五郎江遺跡出土小形仿製鏡の評価

北部九州ではこれまで確認されていなかった文様構成（福岡市教育委員会編 2014）。

- ・鈕の周囲に六弧の複線内行花文
- ・文様帯に四乳と銘文状の文様
- ・面径に比して大きな鈕
- ・大きな鈕孔

⇒近畿製の特徴。

※この時期に製作された北部九州製小形仿製鏡の分布がほぼ北部九州に縮小する（田尻 2012、南 2019）のとは対照的。

## ●弥生時代から古墳時代へ

【弥生時代後期後葉～末】

平原遺跡における面径・面数の絶対的な集中

⇔香川県・岡山県・滋賀県に完形鏡拡散（岡山県・滋賀県には複数面）

※北部九州から関東地方に至るネットワークの成立

→大陸・半島の文物・情報の東方拡散、東方から北部九州への文物の拡散

⇒銅鏡副葬の風習・情報（銅鏡のもつ権威の象徴性含む）が広まる中で、糸島地域の突出性をどのように評価すべきか。

## ●画文帯神獸鏡の拡散

後漢末鏡群の日本列島への拡散状況（岡村の漢鏡7期（岡村 1990、福永 2005））

- ・「上方作」系浮彫式獸帯鏡・飛禽鏡・画像鏡・夔鳳鏡：明確な核を形成しない。熊本県での出土遺跡はそれまで北部九州から銅鏡を受容していた地域から変化する。
- ・画文帯神獸鏡：瀬戸内東部から近畿地方に核を形成。北部九州には破鏡が拡散（九州の他地域も同様）。※糸島地域、福岡地域に不在。
- ・斜縁神獸鏡・「吾作」系斜縁四獸鏡：瀬戸内東部から近畿地方に核を形成。北部九州には完形鏡が拡散。

⇒奈良県を中心に画文帯神獸鏡を頂点とする新しく構築された銅鏡の価値体系・拡散形態の成立。

## ●九州における三角縁神獸鏡・大型倭製鏡

岩本崇編年（岩本 2020） 1段階：福岡県糸島市大日古墳2面

2段階：福岡県10面、大分県3面（伝宮崎県2面）

## 『三種の神器と北部九州』

下垣仁志編年（下垣 2011）：前期を通じて 20 cm を超える大型鏡は福岡県沖ノ島と（伝）宮崎県持田古墳群のみ。

### 3. 三種の神器「八咫鏡」

#### ●これまでに想定されている鏡

- ・平原遺跡出土超大型内行花文鏡（46.5 cm）
- ・三角縁神獸鏡
- ・鉄鏡
- ・八稜鏡

#### ●八咫鏡の御樋代の大きさに関する文献資料（第 330 回邪馬台国の会より）

『皇太神宮儀式帳』（804 年）：外径 60.6 cm、内径 49.4 cm

『延喜式』（927 年）：同上

『内宮遷宮沙汰文』（1266 年）：外径 30.3 cm、内径 23.0 cm

『書記通釈』（1873 年）：内径 27.3 cm

⇒正体を納める御樋代の大きさは時代によって異なっており、最も古い段階は約 49 cm。

しかしこれはあくまでケースの大きさにすぎないので、面径はそれ以下と考えられる。

#### ●八咫鏡の形態に関する文献資料

『類聚神祇本源』（1320 年）「八葉中有方円五位象」

『伊勢二所皇太神宮御鎮座伝記』（鎌倉時代か）「八頭也。八頭八花崎八葉形也。・・・中台円形座也。円外日天八座」

『造伊勢二所太神宮寶基本記』（鎌倉時代か）「八頭花崎八葉鏡也。中台円形座清明也。」

- ・八頭八花崎→内行花文（?）
- ・八葉→八葉座（?）、内行花文（?）
- ・方円→方格＋円座（?）
- ・五位→五葉座（?）、五乳（?）

※いずれも記されたのは中世。

⇒平原遺跡出土超大型内行花文鏡をあてることができるか。

## 『三種の神器と北部九州』

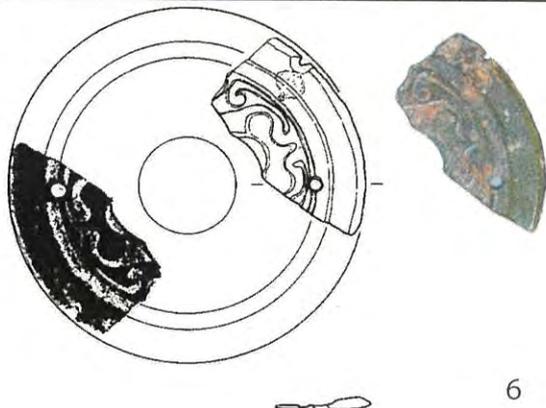
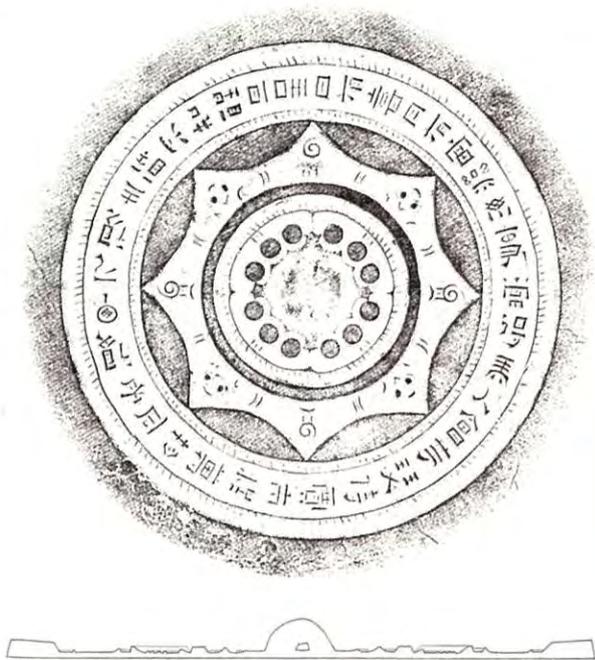
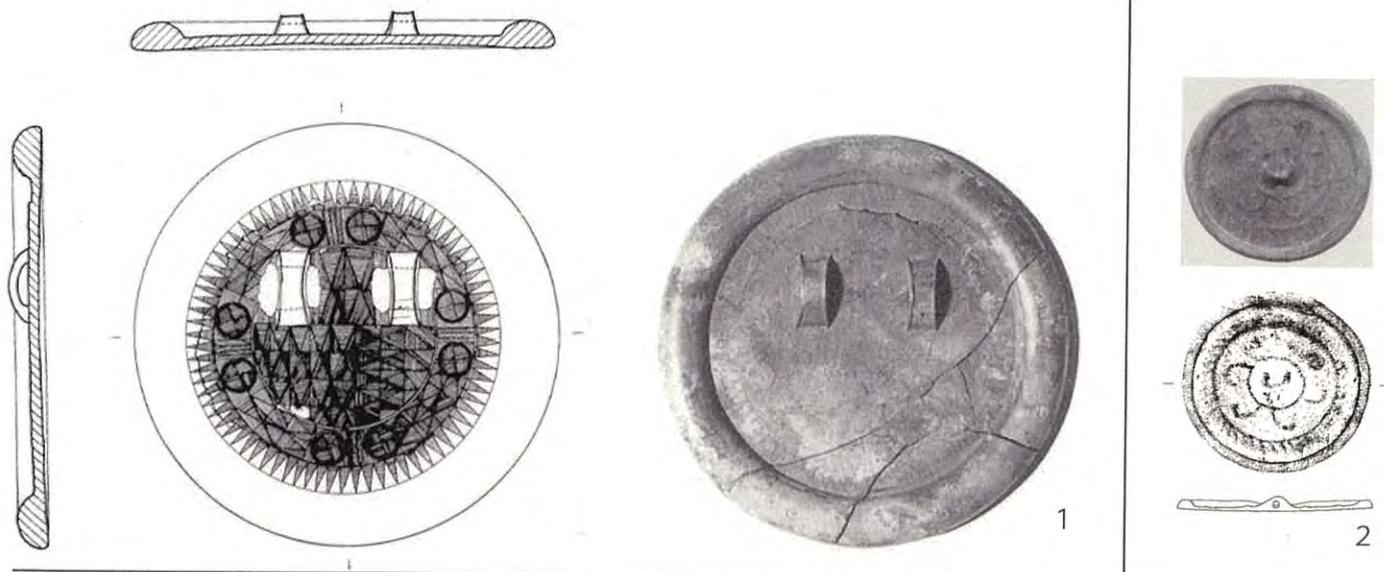
## 参考文献

## 【日本語】

- 糸島市教育委員会編 2017『新訂版 史跡曾根遺跡群 平原遺跡』糸島市文化財調査報告書第16集
- 岩本崇 2020『三角縁神獣鏡と古墳時代の社会』六一書房
- 岡村秀典 1990「卑弥呼の鏡」『邪馬台国の時代』木耳社：pp. 3-26
- 岡村秀典 1993「福岡県平原遺跡出土鏡の検討」『季刊考古学』第43号 雄山閣出版：pp. 44-47
- 岡村秀典 1999『三角縁神獣鏡の時代』歴史文化ライブラリー66 吉川弘文館
- 清水康二 2000「平原弥生古墳」出土大型内行花文鏡の再評価『大塚初重先生頌寿記念考古学論集』東京堂出版：pp. 813-827
- 清水康二・宇野隆志・清水克朗・菅谷文則・豊岡卓之・小林加奈恵 2018「平原から黒塚へ—鏡の再利用技法研究からの新視点—」『古代学研究』第215号 古代学研究会：pp. 1-9
- 下垣仁志 2011『古墳時代の王権構造』吉川弘文館
- 高倉洋彰 1993「前漢鏡にあらわれた権威の象徴性」『国立歴史民俗博物館研究報告』第55集 国立歴史民俗博物館：pp. 3-38
- 高橋徹 1994「桜馬場遺跡および井原鍮溝遺跡の研究—国産青銅器、出土中国鏡の型式学的検討をふまえて—」『古文化談叢』第32集 九州古文化研究会：pp. 53-99
- 竹田市教育委員会編 1992『菅生台地と周辺の遺跡』XV
- 田尻義了 2012『弥生時代の青銅器生産体制』九州大学出版会
- 常松幹雄 2006『最古の王墓・吉武高木遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」024 新泉社
- 原田大六 1966『実在した神話』学生社
- 原田大六 1991『平原弥生古墳—大日靈貴の墓—』葦書房
- 福永伸哉 2005『三角縁神獣鏡の研究』大阪大学出版会
- 南健太郎 2019『東アジアの銅鏡と弥生社会』同成社
- 前原市教育委員会編 2000『平原遺跡』前原市文化財調査報告書第70集
- 宮里修 2008「多鈕細文鏡の型式分類と編年」『考古学雑誌』92-1 日本考古学会：pp. 1-32
- 柳田康雄 1996「平原墳墓の意味」『考古学による日本歴史』5 政治 雄山閣出版株式会社：pp. 105-112
- 柳田康雄 2002a『九州弥生文化の研究』学生社
- 柳田康雄 2002b「摩滅鏡と踏み返し鏡」『九州歴史資料館研究論集』第27集 九州歴史資料館：pp. 1-69

## 【中国語】

馬社強編 2024『鏡花風月—咸陽博物院銅鏡集萃』上海科学技術出版社



- 1 多鈕細文鏡 (福岡県福岡市吉武高木遺跡)
- 2 朝鮮半島製小形仿製鏡 (福岡県福岡市有田遺跡群)
- 3 漢鏡 (前漢鏡) (福岡県飯塚市立岩遺跡)
- 4 北部九州製小形仿製鏡 (福岡県福岡市井尻 B 遺跡)
- 5 近畿製小形仿製鏡 (岡山県岡山市足守川加茂 B 遺跡)
- 6 破鏡 (福岡県福岡市東那珂遺跡)

0 10cm  
(縮尺 1/2)

図1 弥生時代の銅鏡



図2 多鈕細文鏡の変遷と日本列島出土鏡の位置づけ

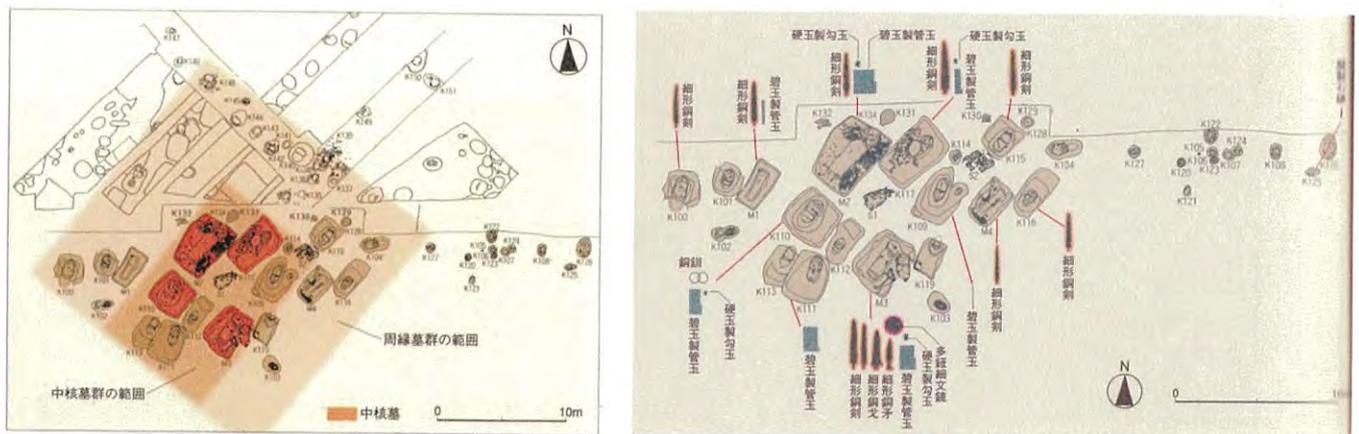


図3 吉武高木遺跡の中核墓群と周縁墓群



図4 諸侯王墓・王后墓・陪葬墓の銅鏡

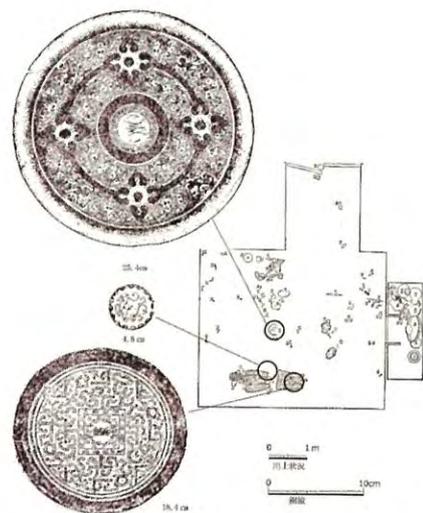


図5 満城漢墓M2の銅鏡出土位置

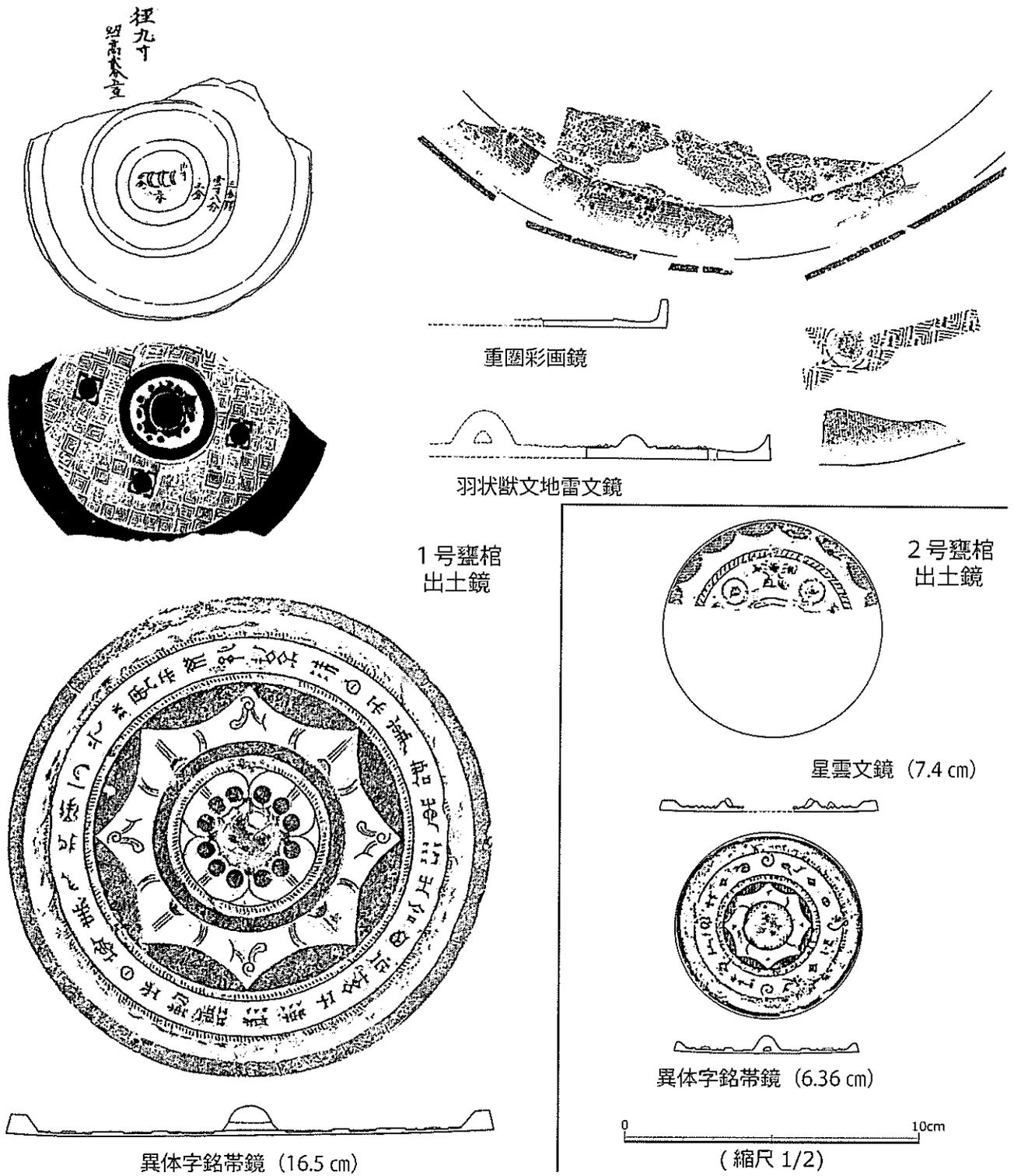
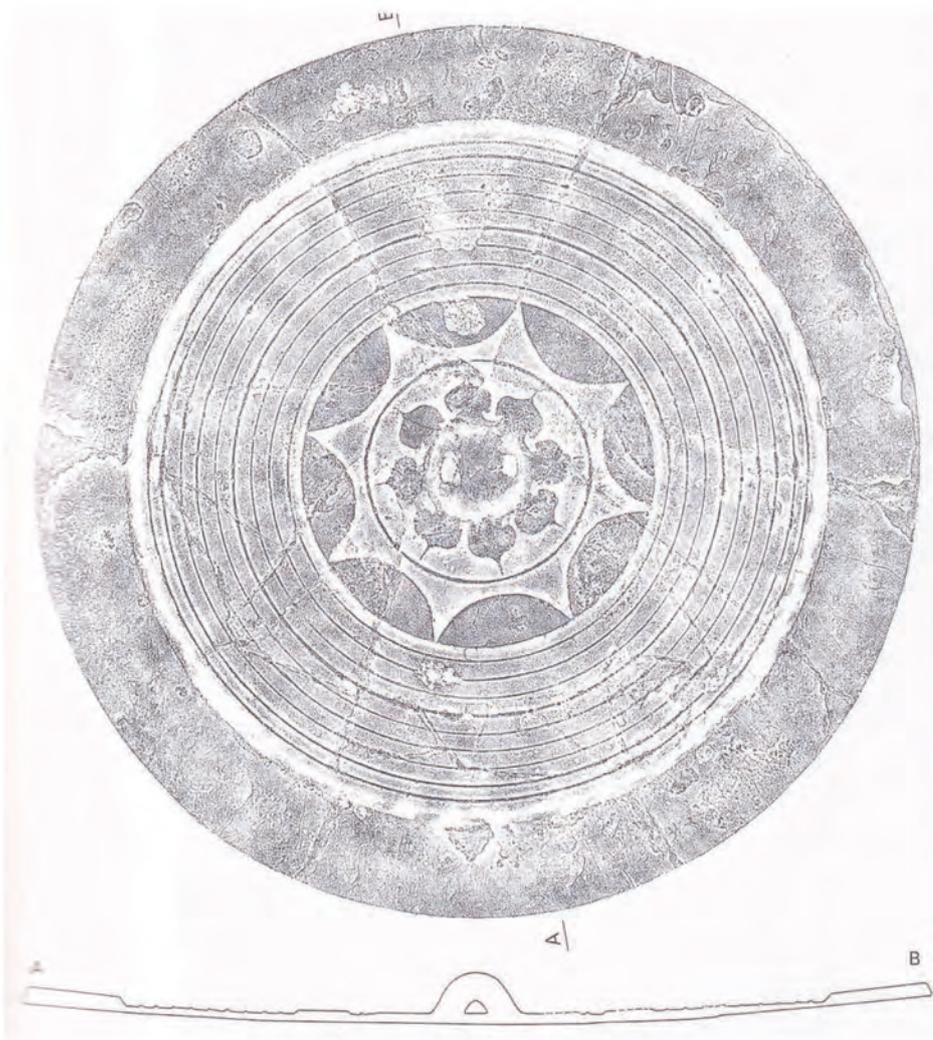


圖6 三雲南小路遺跡出土鏡



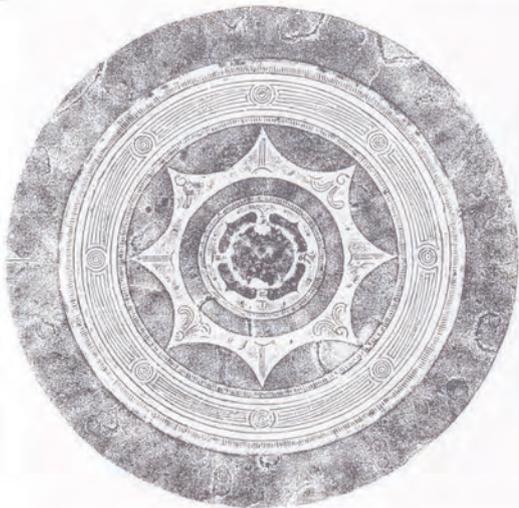
超大型内行花文鏡 (約 46.5 cm)



虺龍文鏡 (16.5 cm)



「尚方作」方格規矩四神鏡 (21.0 cm)



「大宜子孫」大型内行花文鏡 (約 27.1 cm)



「長宜子孫」内行花文鏡 (約 18.7 cm)



「陶氏作」方格規矩四神鏡 (約 16.4 cm)

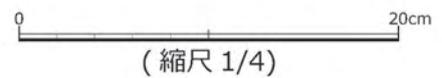


圖7 平原遺跡1号墓出土鏡

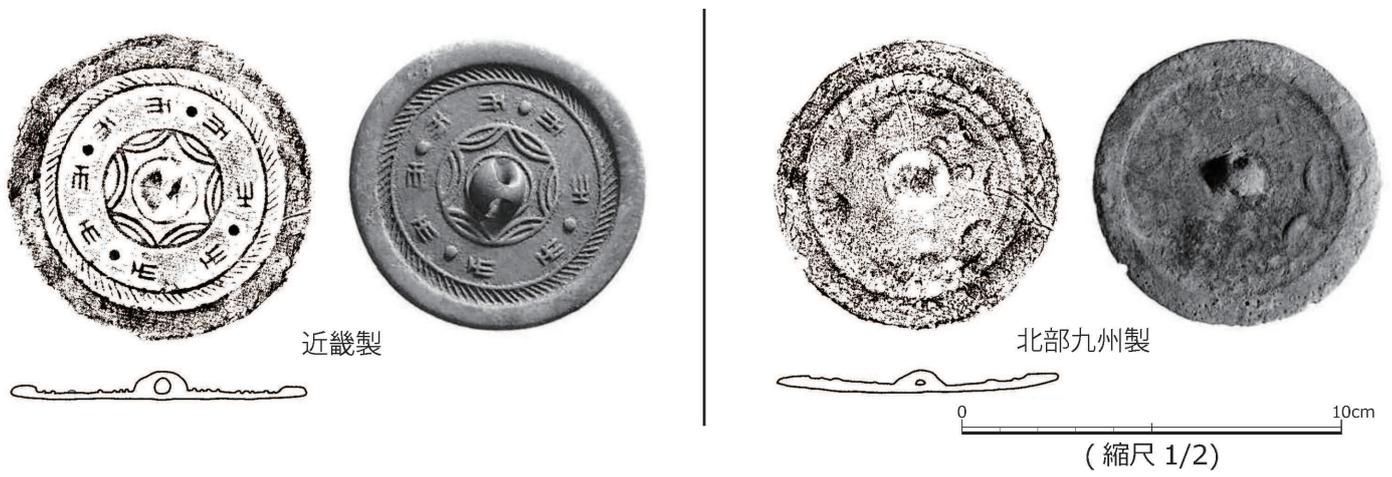


図8 今宿五郎江遺跡出土小形仿製鏡

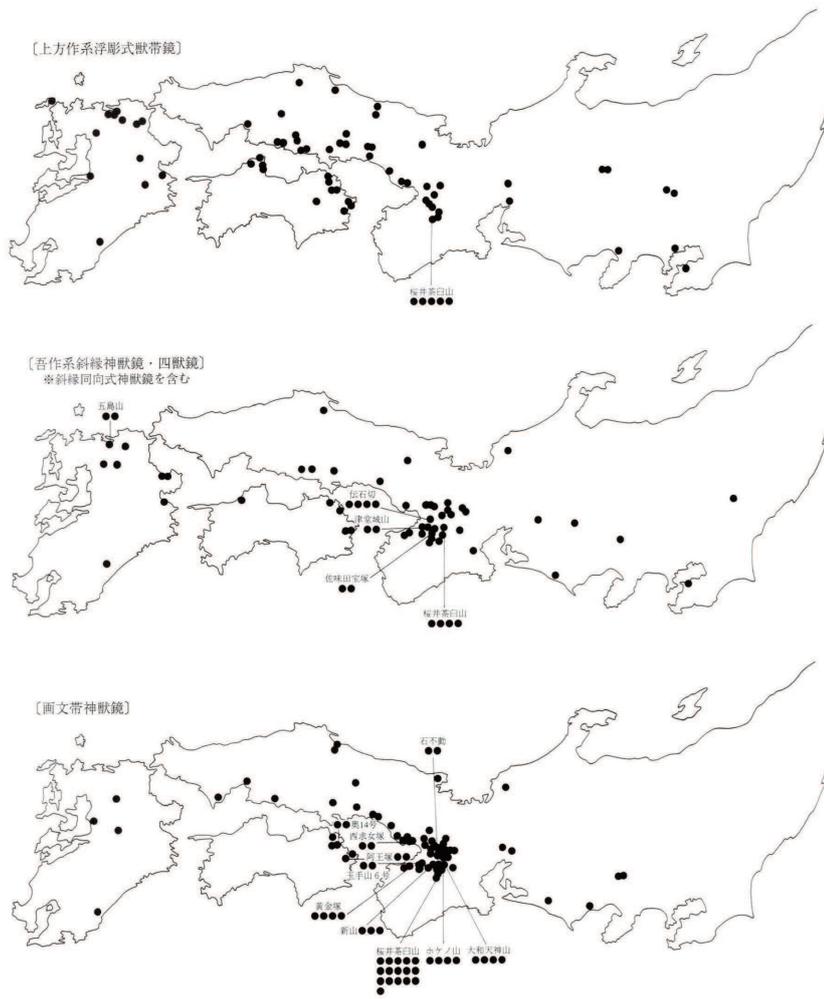


図9 後漢末鏡群の分布



図10 弥生時代終末期における青銅器の序列

製作動向による区分	製作段階	同範鏡平均数	規格鏡群数	規格平均数	総面数	製作年代(暦年代)	
三角縁神獸鏡	成立期 舶載 第1段階	2.1	4	6.3	25	239年～ 240年代初頭	
	定型・量産期 舶載 第2段階	3.0	17	13.1	226	240年代	
	安定期	舶載 第3段階	2.8	9	6.7	67	250年代
		舶載 第4段階	2.9	6	7.2	43	260～ 270年代
	低迷期	舶載 第5段階	2.3	4	8.8	39	280年代
「仿製」 三角縁神獸鏡	復興期	「仿製」 第1段階	2.1	4	6.8	27	290年代～ 4C初頭ごろ
		「仿製」 第2段階	4.4	1	22.0	22	
	終焉期	「仿製」 第3段階	3.4	3	13.7	41	4C前葉 ごろ
		「仿製」 第4段階	1.2	2	15.0	30	4C中葉 ごろ
		「仿製」 第5段階	1.5	1	6.0	6	

福岡県糸島市大日2、福岡県福岡市老司(破鏡)

福岡県福岡市藤崎第1 (伝) 熊本県八代郡  
 福岡県福岡市藤崎第6 大分県宇佐市赤塚2  
 福岡県福岡市那賀八幡 (伝) 大分県宇佐市付近  
 福岡県那珂川町妙法寺2号 (伝) 宮崎県高鍋町持田  
 福岡県大野城市御陵 48号  
 福岡県朝倉市神蔵 (伝) 宮崎県高鍋町持田  
 福岡県苅田町石塚山4 古墳群  
 福岡県宗像市沖ノ島18号

〔凡例〕総数には鏡群に属さない資料を含めるが、鏡種を確定できない資料は含めていない。

図11 九州における初期三角縁神獸鏡の出土傾向

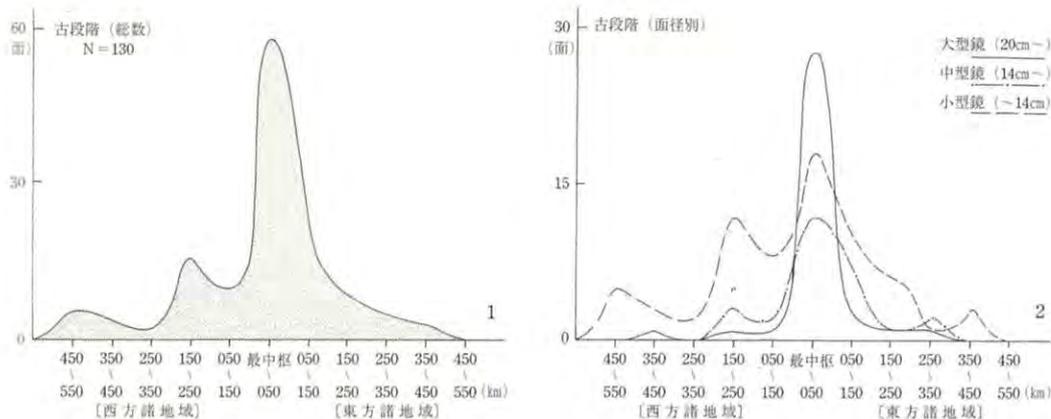


図12 倭製鏡の分布傾向(古墳時代前期前葉～中葉)

図出典

図1: ①福岡市教育委員会1996『吉武遺跡群VIII』福岡市埋蔵文化財調査報告書461

②福岡市教育委員会1997『有田・小田部28』福岡市埋蔵文化財調査報告書513

③立岩遺蹟調査委員会編1977『立岩遺蹟』河出書房新社

④福岡市教育委員会2007『井尻B遺蹟』福岡市埋蔵文化財調査報告書918

⑤岡山県古代吉備文化財センター1995『足守川加茂A遺蹟;足守川加茂B遺蹟;足守川矢部南向遺蹟』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94

⑥福岡市教育委員会1995『東那珂遺蹟』福岡市埋蔵文化財調査報告書400

図2: 宮里2008より作成

図3: 常松2006

図4・5: 南2019

図6: 福岡県教育委員会1985『三雲遺蹟』福岡県文化財調査報告書69

図7: 糸島市教育委員会編2017

図8: 福岡市教育委員会2014『今宿五郎江』福岡市埋蔵文化財調査報告書1221

図9: 下垣2011

図10: 福永2005

図11: 岩本2021より作成

図12: 下垣2011

## 【令和6年度福岡市埋蔵文化財センター第3回考古学講座

## 南健太郎先生「北部九州の銅鏡と弥生社会」配布資料 記載遺跡所在地一覧表】

(遺跡名 50 音順)

## &lt;日本列島&gt;

足守川加茂B (あしもりがわかもびー) 遺跡 (岡山県岡山市)  
 有田 (ありた) 遺跡群 福岡県福岡市早良区  
 池殿奥 (いけどのおく) 古墳群 (野山遺跡群池殿奥支郡) 奈良県宇陀市  
 井尻B (いじりびー) 遺跡 福岡県福岡市南区  
 井原鍵溝 (いはらやりみぞ) 遺跡 (「王墓」) 福岡県糸島市  
 今宿五郎江 (いまじゅくごろうえ) 遺跡 福岡県福岡市西区 (旧怡土郡)  
 宇木汲田 (うきくんでん) 遺跡 佐賀県唐津市  
 大県 (おおあがた) 遺跡 大阪府柏原市  
 沖ノ島 (おきのしま) 祭祀遺跡 福岡県宗像市  
 小郡若山 (おごおりわかやま) 遺跡 福岡県小郡市  
 梶栗浜 (かじくりはま) 遺跡 山口県下関市  
 唐子台 (からこだい) 遺跡 (墳丘墓・前期古墳群) 愛媛県今治市  
 桜馬場 (さくらのばば) 遺跡 佐賀県唐津市  
 里田原 (さとたばる) 遺跡 佐賀県平戸市田平町  
 瑞龍寺山 (ずいりゅうじやま) 山頂遺跡 (墳丘墓) 岐阜県岐阜市  
 須玖岡本 (すぐおかもと) 遺跡 (「D地点王墓」) 福岡県春日市  
 立岩 (たていわ) 遺跡 福岡県飯塚市  
 泊大日古墳 (とまりだいにち) 古墳 福岡県糸島市  
 天王山 (てんのうざん) 古墳群 兵庫県神戸市西区  
 名柄 (ながら) 遺跡 奈良県御所市  
 東那珂 (ひがしなか) 遺跡 福岡県福岡市博多区  
 平原 (ひらばる) 遺跡 (「王墓」) 福岡県糸島市  
 本村籠 (ほんそんごもり) 遺跡 佐賀県佐賀市大和町  
 増田 (ますだ) 遺跡 佐賀県佐賀市  
 三雲南小路 (みくもみなみしょうじ) 遺跡 (「王墓」) 福岡県糸島市  
 持田 (もちだ) 古墳群 宮崎県児湯郡高鍋町  
 用木 (ようぎ) 遺跡・古墳群 岡山県赤磐市山陽町  
 吉武高木 (よしたけたかぎ) 遺跡 福岡県福岡市西区 (旧早良郡)

## &lt;中国&gt;

大雲山遺跡 (漢墓) 中華人民共和国江蘇省盱眙縣  
 滿城漢墓 中華人民共和国河北省滿城縣